

平成30年度香川県総合教育会議 議事録

【日 時】 平成30年11月5日（月） 15：00～16：20

【場 所】 香川県庁本館12階大会議室

【出席者】 香川県知事 浜田 恵造
香川県教育委員会 教育長 工代 祐司
委 員 藤村 育雄
委 員 小坂 真智子
委 員 平野 美紀
委 員 槇田 實
委 員 藤澤 茜

- 【議 事】 (1) 香川県教育大綱の主な取組状況について
(2) 昨今の教育に関する事項の取組状況について

1 開会

〔司会（大山 香川県政策部長）〕

皆さんお揃いになりましたので、ただ今から平成30年度香川県総合教育会議を開会いたします。私は、本日の会議の進行を務めさせていただきます、政策部長の大山でございます。どうぞよろしくお願い申し上げます。

初めに、浜田知事から挨拶をお願いいたします。

2 知事挨拶

〔浜田香川県知事〕

香川県総合教育会議の開会に当たり、一言御挨拶を申し上げたいと思います。

工代教育長をはじめ教育委員会の皆様方には、日頃から本県教育の充実、発展に多大な御尽力をいただいておりますことに、深く敬意を表したいと存じます。

さて、平成28年度から32年度までにおける、本県の教育や学術、文化、スポーツの振興に関する総合的な施策の方向性を定めた「香川県教育大綱」は、今年度が対象期間の中間の年でありまして、今回の会議におきましては、この「教育大綱」に関する県の施策の主な取組状況について御報告いたします。

また、昨今の教育に関する事項として、本県の人口減少に歯止めをかけ、人口の社会増を図るための、いわゆる「高大連携施策」及び「キャリア教育推進施策」について、教育委員会と協働で取り組むべき事項を中心に御報告することとしております。

本日は、これらの事柄に関する教育委員会の皆様の忌憚のない御意見をいただくとともに、認識を共有しながら議論を深めてまいりたいと考えております。

限られた時間ではございますが、本日の議論が本県教育の発展に大きく貢献することを期待いたしまして、御挨拶といたします。

本日はよろしく申し上げます。

3 出席者紹介

〔司会（大山 香川県政策部長）〕

ありがとうございました。

会議に入ります前に、私から本日御出席いただいております方々の御紹介をさせていただきます。

浜田香川県知事でございます。香川県教育委員会からは、工代教育長、藤村委員さん、小坂委員さん、平野委員さん、楨田委員さん、藤澤委員さんです。

4 会議事項

〔司会（大山 香川県政策部長）〕

それでは議事に入ります。

本日の会議では、最初に香川県教育大綱の主な取組状況と、昨今の教育に関する事項の取組状況について御報告をし、その後にもとめて意見交換を行いたいと存じます。

それではまず、教育委員会から教育大綱の取組状況について御報告をお願いいたします。

〔工代 香川県教育長〕

それでは、私工代から香川県教育委員会における香川県教育大綱の主な取組状況について御説明申し上げます。

まず資料ですが、緑色の横長の「香川県の児童生徒の現状」について御説明申し上げます。教育大綱の六つの柱に沿って説明したいと思います。

まず1ページをお開きください。教育大綱の柱の一つ目、「確かな学力の育成と個に応じた教育の推進」ですが、ここで取り上げておりますのは、学力の定着状況です。

全国学力学習状況調査における全国と本県との平均正答率の推移をお示ししてございます。

今年度は、小学生では主として活用に関する問題である、国語B、算数Bで全国平均を上回っており、中学生では主として知識に関する問題である、数学Aで全国平均を上回っております。

次に2ページをお開きください。1日あたりの家庭等での学習時間をグラフ化しています。

本県は薄いブルーですが、全国に比べ、小中学生とも1から2時間勉強している割合が高く、3時間以上の割合が低くなってございます。

次に3ページ、4ページでございますが、「豊かな人間性を育む教育の推進」です。

暴力行為の発生件数、いじめの認知件数、不登校児童生徒数の本県の推移を示してごさいます。

暴力行為発生件数は小学校で増加し、中学、高校では減少しています。いじめ認知件数は小中学校で増加し、高校では減少しています。

ここで、小中学校でのいじめの認知件数が倍増したのは、文部科学省が平成29年3月、「いじめの防止等のための基本的な方針」の改定において、さらに積極的にいじめを認知することが必要であるとし、これを受けまして本県においても、昨年6月に「香川県いじめ防止基本方針」を改定いたしまして、積極的に認知することを周知徹底したことによるものです。

不登校でございませう。次の4ページですが、不登校の児童生徒数は小学校ではやや増加傾向、中学校、高校ではほぼ横ばいでございませう。

5ページでございませう。自尊意識等、規範意識の状況です。

「自分にはよいところがあると思ひませうか」などの自尊意識等に関する質問に当てはまると回答した割合は、小中学生とも全国平均を下回っています。

一方で、「いじめはどんな理由があってもいけないうことだと思ひませうか」との規範意識に関する質問に当てはまると回答した割合は、小中学生とも全国平均を上回ってございませう。

次に6ページをお開きください。教育大綱の柱の三つ目、「健やかな体を育む教育の推進」に関する現状として、児童生徒の体格を示してございませう。

身長、体重を全国と比較すると、中学生の男女と高校生の女子の体重を除いて、身長、体重とも小中高校生で下回ってございませう。

7ページでございませう。昭和60年度との体格比較ですが、身長、体重とも現在の小中高校生がほぼ同じか上回ってございませう。

8ページをお開きください。全国との体力運動能力の比較です。

小中高校生とも、握力や反復横跳び、シャトルランなどでは下回ってございませうが、長座体前屈はほぼ同じか上回っています。

9ページをご覧ください。昭和60年度との体力比較をいたしますと、現在の小学生男女の反復横とび、中高校生男子の50mが上回っておりますが、それ以外の項目は下回っております。

10ページでございませう。教育大綱の柱の四つ目、「元気で安心できる学校づくり」に関する現状として、公立学校施設の耐震化の状況をお示ししてございませう。

平成30年4月1日現在の公立学校施設の耐震化率は、公立の小中高校と特別支援学校で、いずれも100%となっております。

11ページです。教育大綱の柱の五つ目は、「社会全体で子どもを育て、いつでも学べる環境づくり」でございませう。

学校の授業以外の1日当たりの読書時間をグラフ化してございませう。本県は薄いブルーです。

小学生では全国平均とほぼ同じですが、中学生では全くしない割合が上回っています。

最後のページ、12ページです。教育大綱の柱の六つ目、「多様なスポーツ活動が実践できる環境づくり」です。国民体育大会総合順位・入賞競技数等の推移を示しています。

今年国体の総合順位が昨年度の30位から29位に順位を上げました。国体及び全国高校総体等の入賞数は増加傾向となっております。

以上が各種統計により現在の児童生徒の状況について、簡単ではございますが説明をいたしました。

次に、今年度取り組んでおります主だった施策について、「香川県教育施策の概要」により御説明申し上げます。青色の横長の資料でございます。

教育委員会では、子どもたちを取り巻く環境の変化や新たな課題に対応した各種教育施策に積極的に取り組んでございますが、4ページをお開きください。

4ページ、「外国語教育 国際理解教育の推進」では、今年度新たに英語教育充実のための小中学校連携事業に取り組んでございます。

この事業において、中学校英語科教員が校区内の小学校5、6年生の英語の授業をサポートする体制を整備することで、小学校の英語教育の充実と小学校での学びを踏まえた中学校英語の授業改善に繋げ、児童生徒の英語力の向上を図っているところでございます。

続きまして8ページをお開きください。「暴力行為、いじめ不登校対策等生徒指導の充実」での児童生徒の自治的活動支援事業では、「香川県いじめ防止基本方針」に基づきまして、3年に1度開催する「いじめゼロ子どもサミット2018」を開催し、いじめ防止に向けた児童生徒の自発的な取組みを支援してございます。

11ページをお開きください。「教員が子どもと向き合う環境づくり」として、今年3月に策定した「教職員の働き方改革プラン」に沿いまして、各種改善方策を実施し、教職員の働き方改革を推進することにより、学校教育活動の充実を図っております。

そのうち、「教職員の働き方改革推進事業」では、教員が児童生徒の指導に一層専念できるよう、スクールサポートスタッフや部活動指導員の配置を促進することにより、教員の働き方改革に取り組む市町教育委員会を支援してございます。

また、県立高校の成績処理などの校務を支援するシステムを整備するとともに、市町のICT環境の充実を図るための校務支援システムの共通化等に向けた研究を進めてまいります。

この他の事業の詳細につきましては、施策体系ごとに記載してございますのでご確認ください。

今年度も引き続き、「子どもたちの夢と笑顔を大切する教育」を推進し、学校、家庭、地域と連携しながら各種施策を積極的に進めてまいります。

以上で、教育委員会における香川県教育大綱の主な取組状況についての御説明を終わらせていただきます。

〔司会（大山 香川県政策部長）〕

ありがとうございました。続きまして知事部局から報告をお願いします。

〔尾崎 香川県政策部政策課長〕

政策課長の尾崎と申します。よろしくお願ひいたします。

私の方からは、知事部局の「教育大綱に関する主な取組状況」といたしまして、魅力ある大学づくり、私学振興、子育て支援、放課後の居場所づくり、文化芸術に親しむ環境づくり、この4点につきまして御報告をさせていただきます。

失礼ではございますが着座して御説明をさせていただきます。

まず、お手元に配付した資料の「香川県教育大綱の主な取組状況（知事部局）」の1ページをお開きください。1、2ページにつきましては、「魅力ある大学づくり」ということで、これは基本的には若者の地元定着への取組みでございます。

その背景となっておりますのが、1ページの真ん中の折れ線グラフを御覧いただきたいと思います。四国4県と岡山県における高校生の自県大学進学者の割合の推移でございます。

平成30年度でございますが、香川県の高校生の大学進学者のうち、17.5%が県内大学、つまり約8割は県外の大学に進学している状況でございます。

また、右側でございますが、香川県の高校生が進学する大学の所在地でございますが、数が最も多いのは近畿地方で約34%、中国地方で約20%、関東で約13%となっております。

このような状況を踏まえまして、「若者から選ばれる県内大学」ということで、「魅力ある大学づくり」の取組みを続けているところでございます。

この主なもので、「県内大学などと連携した若者の県内定着促進支援事業」として、県内大学等が県内高校や県内企業などと連携して、若者の県内定着に資する取組みへの支援や、また県内大学等と県で構成します「大学コンソーシアム香川」が実施いたします「情報発信や県内高校との連携強化」への支援を行っているところでございます。

2ページでございますが、これは先程御説明した県外に進学した学生にUターンしてもらおうという取組みが中心でございます。

県外に進学した学生のUターン就職促進等を行うものでございますが、県内高校生が多く進学する大学、右側のところがございますが、大学と就職支援協定を締結することや、就職支援セミナーなどを実施するとともに、左下でございますが、日本学生支援機構の無利子奨学金を活用しまして返還を支援する事業を実施するなど、Uターン就職の促進を図っているところでございます。

おめくりいただきまして3ページでございます。私学振興でございます。

公教育の一翼を担う私立学校の教育条件の維持向上、保護者負担の軽減及び学校経営の健全を図るための補助でございます。

主なものとしまして、まず一番上のところでございますが、「私立学校助成事業」が約34億円でございますが、人件費や教育活動等の経常的な費用について助成を行いますとともに、特色ある学校づくりの支援、学校施設の耐震化補助などを行っております。

また、一つ下でございますが、授業料の一定額を助成するための高等学校等就学支援金交付事業や、これは国の交付金でございますが、低所得者世帯等への高校生の授業料を減免する学校法人に補助を行います、私立高等学校授業料軽減補助事業など低所得者世帯の私立高校生徒に対して、奨学のための給付金を支援する事業などに取り組んでいるところでございます。

この他、私立中学校や専修学校の支援なども行っているところでございます。

次は4ページでございますが、「社会全体で子どもを育て、いつでも学べる環境づくり」でございますが、まず「親育ちを応援する環境づくり」に関する取組みにつきまして、この4ページに記載しております事業につきましては、基本的に地域の子ども、子育て支援の充実を図るため、事業を実施しております市町に対する補助を行っているものでございます。

今日お手元に2冊小さい冊子を配布させていただいております。

一つは、「みんな子育て応援団」でございます。

これはライフステージに合わせた子育て支援情報を提供するため、出産から大学進学までの子育ての過程で利用できる制度や問い合わせ先を分かりやすくまとめたもので、また、もう一冊の方は、水玉模様の冊子でございますが、「香川県子どもの未来応援のしおり」でございます。

子供の貧困問題が深刻化する中、本県においても、子供の貧困対策を総合的に推進するため、これらに関する具体的な事業等についてまとめたものでございまして、こういった多くの子育てについての行政サービス等を行っております、教育委員会を含む様々な施策を分かりやすくまとめまして、関係機関に配布し、活用をしているところでございます。

資料に戻っていただき、5ページをお願いいたします。これは「放課後子ども総合プラン」でございます。

教育委員会と健康福祉部で連携しているものでございますが、知事部局側は放課後児童健全育成事業、いわゆる放課後児童クラブでございます。県内には約270を超えるクラブがございますが、そういったものに対して支援しているところでございます。

6 ページ、最後になりますが、「文化芸術に親しむ環境づくり」ということで、様々な事業実施しております。

今年度は、かがわ文化芸術祭 2018 事業として、かがわ文化芸術祭 60 周年を記念する事業などを行っておりますとともに、下の図でございますが来春開幕いたします「瀬戸内国際芸術祭 2019」の準備を現在行っているところでございます。

知事部局の事業について、私からの説明は以上でございます。

〔司会（大山 香川県政策部長）〕

次に、昨今の教育に関する事項の取組状況に移ります。

本日の会議では、高大連携施策とキャリア教育推進施策の二つを議題といたしたいと存じます。

それでは一つ目の議題でございます、高大連携施策について、まず知事部局から報告をお願いします。

〔吉田 香川県政策部次長〕

政策部次長の吉田と申します。よろしくお願いたします。座って失礼します。

私からは、「昨今の教育に関する事項の取組状況」といたしまして、高大連携施策について、知事部局の取組状況を御説明させていただきます。

お手元の表紙に「昨今の教育に関する事項の取組状況」とあります、A4 縦版の資料に沿って御説明いたします。

資料の 1 ページをお開きください。

先程も御説明いたしましたように、本県では、大阪、兵庫、京都をはじめとする近畿地方や、岡山、広島などの中国地方への大学進学者が約半数を占めており、全体では 8 割以上の若者が大学進学時に県外大学に進学しております。

一方で、県出身者が県内大学に進学した場合、約 8 割の若者が県内就職している現状を踏まえ、県では若者の県内定着の促進を図るため、平成 27 年度から県内企業による大学生への講義や大学生の県内企業見学会など県内大学等と企業が連携して行う取組みや、県内大学等と高校が連携して行う取組みなど「魅力ある大学づくり」に向けた支援を行っております。

県内大学等と高校が連携して行う、高大連携の具体的な取組みといたしましては、県内大学等による、演劇、介護などの高校での出前講座や、県内大学等における高校生を対象とした看護、保育などの体験授業などのほか、英語スピーチや弁当作りなど高校生を対象とする

コンテスト形式のイベントなど県内大学等が実施する取組みに対して助成を行っているところと
ころです。

この他、県と県内大学等で平成27年9月に設立した「大学コンソーシアム香川」では、
県内大学等の紹介やオープンキャンパスに関するポスター、チラシを作成して、県内高校に
配布するなど、県内大学等の情報発信を行うほか、県内高校において県内大学等合同説明会
を行っており、これらの取組みに対して支援を行っております。以上です。

〔司会（大山 香川県政策部長）〕

続きまして教育委員会から御報告をお願いいたします。

〔工代 香川県教育長〕

それでは続いて、資料の2ページですが、高大連携施策についてということでございま
すが、一番上の丸、高校における県内大学との連携として、各高校ではキャリア教育の一環と
して、県内大学の理解を深め、主体的な進路選択ができるよう、大学訪問や研究室訪問、高
校での大学学部説明会を開催してございます。

また、生徒向け講演会の講師や授業での指導、教員に対する現職教育の講師派遣など、様々
な教育活動において、県内大学の協力を仰いでございます。

中でも、昨年度設置された坂出高校教育創造コースでは、香川大学教育学部と連携いたし
まして、将来本県教員のリーダーとなる人材を育成するための教育活動を行ってございま
す。

二番目の丸でございまして、グローバルリーダー育成事業でございまして、香川県教育委
員会と日本社会イノベーションセンターの共催による、イノベーション教育プログラム東京
イノベーションサマープログラムを今年8月に小豆島で開催いたしました。香川大学創造
工学部と連携して、事前のワークショップを実施したものでございます。

3番目の丸でございまして、高大連携による高校生対象体験事業、平成15年に県教育委
員会と香川大学は協定を結び、公開授業や体験授業の受講ができるようにしてございま
す。

今年度は公開事業に10名、体験授業に93名の高校生が参加いたしました。

最後の丸でございまして、香川大学と香川県教育委員会との懇談会として、香川大学と県
教委双方の諸課題の解決に向けまして、両者が連携を図りながら施策を推進するため、学長
をはじめ、大学幹部の皆様や私どもで構成する懇談会を平成29年10月に設けまして、教
員養成、教職大学院、大学入試、教育施策立案等をテーマに、定期的に年2回程度の意見交
換を行っているところでございます。説明は以上です。

〔司会（大山 香川県政策部長）〕

ありがとうございました。

続きまして二つ目の議題でございます。キャリア教育推進施策について、知事部局から報告をお願いします。

〔近藤 香川県商工労働部理事〕

商工労働部理事の近藤と申します。どうぞよろしく願いいたします。着座して失礼いたします。

私からは、キャリア教育推進施策について、知事部局の取組状況を御説明させていただきます。

資料の3ページを御覧ください。

キャリア教育推進施策につきましては、高校生や大学生等が自身の将来を考える際に、県内就職が選択肢の一つとなるように県内企業の御紹介ですとか、高校や大学での授業におけるキャリア教育を推進しているところでございます。

まず、高校生を対象としましたキャリアデザイン教育出前授業でございますが、高校生がまず働き方にどのようなものがあるかや地元就職の利点、または県内企業の魅力等を学んでいただくことで、将来の選択肢として地元就職を意識していただけるように、外部講師による出前授業を行っております。

こちら、テキストの写真がございしますが、このように、「未来の自分についてちょっぴり考えてみよう」というタイトルの教材冊子で、就労形態や働き方、香川と都会での暮らしの違いなどをイラスト等で伝えまして、見やすくわかりやすく説明した教材を用いまして、また中には、地元で働く先輩の事例紹介なども交えて、紹介しております。

この本の中身は、自分で考えてもらうというような内容になっておりまして、授業の方は、寸劇やグループディスカッションを交えた参加型の授業を実施しているところでございます。

29年度におきましては、こちらに記載しております8校33クラスでの実施となっております。

公立高校につきましては、教育委員会から各高校へ実施の御案内をしておりますし、私立につきましては、労働政策課の方から私立高校の校長会等でPRをして受入れをお勧めしているところでございます。

この結果、29年度県内の高校生の就職者数が1,576名でございますが、1,382名、87.7%が県内に就職されておりまして、全国に比べて県内就職率は数%高いという実績でございます。

続きまして、香川大学での単位認定型の特別講義でございます。

これは大学生を対象としたキャリア教育として実施しておりまして、大学生が自らのキャリアについて能動的に考えていただける契機となりますよう、主に1年生を対象に実施しております。

2年生、4年生の受講も一部ございますが、中心に行っているのは1年生でございまして、下に記載しておりますように、本年度につきましては、第1クォーターと第2クォーターの2回の実施で、それぞれオリエンテーションが1回、講義が6回、まとめが1回の全8回でございます。

この講義6回のうち、5回に地元の職業人の講師を招聘いたしまして実施しております。

本年度の内訳といたしましては、警察官や教育委員会などの公務関係者、また銀行など金融、新聞社のマスコミ、デパートなど、それに女性起業家も交えた幅広い職業人の方をゲスト講師としてお招きして実施しているところでございます。

学生は第1クォーターが199人、第2クォーターが40人と合計240人近くの多数の学生が参加しております。

このような事業を推進した結果、現時点での県内大学または短期大学、高等専門学校を交えた就職者の進路の内、約半数が県内での就職というような実績になっている現状でございます。私の報告は以上で終わらせていただきます。

[司会（大山 香川県政策部長）]

続きまして、教育委員会から御報告をお願いいたします

[工代 香川県教育長]

では、続けて私から教育委員会の取組みを説明させていただきます。

資料は4ページでございます。まず、キャリア教育の充実に関する事項でございますが、県教育委員会では平成23年に「香川県次代の担い手育成コンソーシアム」を設置いたしまして、産学官が連携して次代の香川を担う人材育成のための協議とか情報交換を行ってまいりました。

平成26年度からはやり方を変えまして、コンソーシアム委員と企業関係者が毎年高校2

校を訪問し、授業や施設の見学、キャリア教育担当者との意見交換会を実施する形態に改めてございます。

2番目の丸のインターンシップでございますが、全ての県立高校29校において実施してございまして、昨年度は合計3,003人が791社でインターンシップを行いました。

また、次の「プロを講師とした授業」もいろいろやっております。

次の丸ですが、「専門高校ビクトリープロジェクト事業」を実施いたしまして、産業教育に関する全国レベルのコンテストや、研究発表等で全国優勝を目指す高校を支援してございます。

また一番下の産業教育フェアでございますが、今年度は11月17日土曜日に開催いたします。専門教育に対する一般社会の関心を高め、生徒の学習意欲や職業観の高揚を図ってまいりますと考えてございます。

次に就職指導及び職場定着指導に関する事項でございます。

一番上のジョブ・サポート・ティーチャーは、就職対策として9名の方をお願いしてございまして、兼務方式で19校に配置してございます。生徒の就職相談や企業訪問しての求人開拓、卒業生の職場定着指導等を行っていただいております。

また、その下の丸であります。教員等による企業訪問も行ってございます。

また、職場見学会の開催とか、新規学卒者のための職場定着サポート、職場定着促進セミナーの開催等をやっております。

また、一番下でございますが、香川労働局と協力した就職面談会の開催等を行っているところでございます。以上でございます。

〔司会（大山 香川県政策部長）〕

ありがとうございました。

それでは、これから意見交換に移りたいと存じます。

まず、教育大綱の学力づくりに関連する部分として、「学力向上」について意見交換を行いたいと存じます。いかがでございますか。

〔浜田香川県知事〕

これは私からお願いしたいと言いますか、時間が限られている中でなかなか意見交換が難しい、非常に大きなテーマですけれど、先程教育委員会から「香川県の児童生徒の現状」の1ページで学力の定着状況の報告がありました。

それに関して、さらにまた「香川県教育施策の概要」においても、1 ページで確かな学力の育成が掲げられておりますけれども、いわゆる学力を測るのは現在、学力・学習状況調査ということになっておりますけれども、いわゆる平均正答率で全国以下の部分もあるという意味で、学力の物差しがこれでいいのかという点もあると思うんですが、こういった調査をもってどこまで判断するのかという、まずそこからの議論になると思うんですけれども。

県民の皆様からは、かつての学力日本一と言われた頃のことを記憶されており、これを踏まえて、もっと学力が高くなるのか、そのような状況というものが望ましいのではないかと御意見もあります。

御覧のとおり、この表はこういう形になっておりますが、新聞等では、国語のこれについては何位というふうに非公式のランキング的な数字が全部出るわけで、文科省はそういうものを必ずしも正式なものとして発表していませんけれども、そういうランキング的なところもあり、また、それについても非常に考え方がいろいろあると思うんですが、いずれにしても、この学力の状況について、どのように受け止めるのか、この平均以下もあるかもしれないけれども、平均を上回ればそれに越したことはないけれども、そんなに目を吊り上げて取り組む話かどうかというそういう見方もあると思います。

一方で、いや、そうでなくて、これはやっぱり非常に重要なことではないかと、子どもたちにちゃんとした学力をつけてもらい、少なくとも平均以上、平均というものがまたいろいろあると思うんですけども、きちんとした学力がついていないということでは、いろんな意味で問題ではないかという考え方と、むしろ他に測るべき物差しがあるのではないかという意見もあるかなと思います。

私もいろいろ考えておりますが、学力調査状況が発表されると、そういった疑問があるんですけれども、どう評価するか、どう受け止めるか。その上で、どのような対応が必要であるか、あるいは別のことに力を入れるべきだとすればどういったことが考えられるのかを教育委員の皆様方に率直な意見をお伺いできればと思います。

もちろんこの場で結論が出せるような、そういう話ではないですけども意見交換できればと思います。

〔藤村 香川県教育委員〕

今日はありがとうございます。

今知事から学力についてどう考えているのかということでございましたけれども、やはり全国学力調査で、平均を上回るのが望ましいと私は考えております。

読み書き、そろばんは、やっぱり生活する上で非常に大切な要素になろうかと思えます。

一方で、個々の力を伸ばすという意味で、香川県では香川県独自の学力調査もやっており、それに伴って、学力がこのくらいからこのくらい伸びたという達成感のある、その個々に応じたきめ細やかな教育も行っておりますので、それはそれでいいですが、ただ単に国語、数学だけで見るという見方はもう少し幅を広げて、香川県の子どもを見てあげてほしいなというふうには思っております。

理科とか社会もございますし、あるいは体育または芸術の部分もございますので、そのあたりも同時に伸ばしていく必要がやっぱり子どもたちにはありますので、おそらく時代とともに評価の仕方とか評価のポイントもまた変わってくると思うんです。そういうことで、私は今の状況調査をまず大切にし、平均点を上回ればいいと思うんですけれども、もう少し多角的にも評価を加えていく必要があるのではないかというふうに思えます。

それから、もう一点言わせてもらうなら、有能な人材を輩出するということは香川県にとって誇らしいことですが、先程の報告にもありましたが、職業高校の出身の方が県内に留まる割合は8割強ということで、学業の成績がトップクラスばかりいると、これまた県外への流出、ひいては人口減少の一因にもなる可能性もあるという、非常にジレンマした課題でもあると思うんです。

ただ、これからの職業高校は、やはり何かクラフト的なものを子どもたちが身に付け、豊かな生活ができるような職業に就けるような教育をもっと推すべきではないかというふうに思っております。そして、有能な人材を極端に作るような格好で進めた方がいいのではないかなというふうな気もしております。

香川県の場合は、公立高校の方が進学校で有名なのですが、他県では、私立の方も優秀な人材を輩出しており、例えば高知県であれば、私立高校の方が名門と言われるようなところもございますので、このあたりは、私立学校との連携も将来的には考えていく必要があるのではないかと思っております。

すいません、取り留めのない意見になってしまいましたけれど、まず先頭を切らしていただきました。

[平野 香川県教育委員]

今日はありがとうございます。

私も藤村委員の意見とそれほど変わらないですけど、一点追加するなら、体力についてはもう少し向上が必要だと思えます。読み書き、そろばんが基本だと思いますけれども、や

はり体力というのも将来何をするにも大事だと思います。表を見ますと、香川県の何年前と比べると衰えているものもあって、先ほどの藤村委員の意見とも重なりますけれども、学力ももちろん最低限必要ですが、生きる力として、体力の方も合わせて向上させることが必要と考えています。

簡単ですけれども、以上です。

[小坂 香川県教育委員]

本日はありがとうございます。

一言ではなかなか言えないですけれども、私は高校の現場にいましたが、教員になった頃の生徒たちと、20年、30年と勤務しての生徒たちを比べると、取り巻く環境が変わったこともあり、学力の低下を感じました。

その中で思ったのは、昔の生徒は遊ぶこともそんなになかったので、勉強以外で何か一つ自分の好きなことを徹底してやる力を持っていたような気がします。テレビゲームを筆頭にいろいろなことに時間を費やすことができる今の子どもたちは、何か一つのことをとことんやるということがもっと体験できたらいいと思います。

いろいろな経験をして、うわべだけで、何が残ったのかというと何も残らない。何でもいいので、自分はこれが好きだ、そして、それを友達と一緒に一生懸命やったという経験を小学生や中学生の時からしていると、その後の生活も多少変わってくるのかなと思います。

いじめとか何とか言われていますが、イライラしていたけれど、部活をして汗をかいたら、なんだあんなちっぽけなことイライラしていたのかと思うこともありますし、何か一つ頑張ると、周りの友達からすごいなと認められると、本人自身の自信になり、自己肯定感も強くなり、何事にも頑張ろうっていう気になってくるのかなと思っています。取り留めがありませんけれど、以上です。

[槇田 香川県教育委員]

今日はありがとうございます。私は企業としての人を左右するその一面からも考えているんですけど、私がよく使ったのは一芸に秀でている、何か特別に一つでもできることがある、いい成績が出せるものがあつたら、努力すれば他も伸びるんじゃないかというその可能性を求めていました。

また、この学力、今の昔でいう学力検査は、競争を煽ってはいけないとかいろいろな批判はありますけれども、私としては競争のないところに成長はないと思います。ライバルがい

る、競争をするから伸びると思います。理想的に一人の自主性に任せてやるというのは、これはよっぽどの人でないと無理ではないかなと思います。知事みたいな方がたくさんいればうまくいくのでしょうか。

これは、例えば、次回の調査の時には何番以内になると、やはり先生なりが目標を設定することが必要だと思います。今回の福井国体でも30位内に入る、20番台になろうという大目標を掲げた結果、本当に最後コンマ5の差で29位に出来ました。

やっぱり、常に人生の目標を定めて、それに対して努力することが大切です。目標ですから、いつまでにそれをやるかをちゃんと設定してやらないとなかなか難しいのではないかなと思います。だから、少々批判があろうが、今学力調査の上の方に並んでいるところは、学校でもすごい努力をしていると思います。先生が引っ張って、勉強そのものの傾向と対策をやらして、それで良い成績を出しています。ですから、香川県が上を目指すのだったら、やっぱり目標を設定して、それに対する対応に取り組まないといけません。その時は嫌だなと思って、最後に一番得をするのは受けた子どもたちだと思うんです。

やっぱり自分がレベルアップするには誰かに引っ張って行ってもらう、これが非常に大切ではないのかなと思います。

ですから、県としてやっぱり今度は何番になろうという目標を設定して、それに対応した対策をしていくというのがまず一番ではないかなと思います。

先程、能力のいろいろな面があると言いましたけれども、勉強だけではなく運動も能力として大切だと思います。なかなか日本というのは、運動のできる人と勉強ができる人は、同じように評価しないんですが。

アメリカとかは、もうこれだと決めたらその目標を立てます。韓国でもそうですが、ゴルフの女子プロが強いのはそのためだと思います、それも生活を懸けてやりますからね。やっぱり目標を定めてそれに対してどう取り組んでいくかが大切だと思います。

いろいろ難しい面はあると思いますが、やはり県なりが指導力を発揮して、取り組んでいただきたいと思います。

以上です。

〔藤澤 香川県教育委員〕

すいません。今日はありがとうございます。

私自身が福祉分野の人間でもあるので、その部分に絡んだ話になるのですが、低学力の子たちであるとか、体験活動もお金で購入するというような最近の状況の中で、いろいろな

習い事を習っている子と、一方で、全くそういう場にも恵まれない子、例えば放課後とか休日の時間を一人家で過ごす子もいたりする中で、学力面以外で子どもたちが力を伸ばす機会がすごく均等ではないなと私自身現場で働きながら感じていました。そういう部分では、先程、知事部局と教育委員会で行う放課後の時間の使い方に対するサポートがいろいろあるとのことですが、それも利用できていない子どもたちがまだまだいるという現状の部分のサポートもしていかないと、学力向上の視点だけになると、上層部以外の低学力とか他の機会の恵まれない子たちに対しての対応が置き去りになってしまっても怖いなと正直感じています。

〔浜田香川県知事〕

なかなかまとまるような議論でもないし最初から思っていますけれど、確かに平均、偏差値とか言っても、藤澤委員さんがおっしゃったように、底上げというか、学力のあまり付いてない人たちがもっと上がっていくとか、例えば同じ平均でも100点の子と0点の子が同じぐらいいるのと、そうではなくて、50点の子がほとんどでは、そこはまた違ってきて、どういう人間を育てたいのかというところになって、それは非常に難しいんだと思いますけれども。

私は楨田委員のおっしゃったようなところも非常に共感するといいますか、あまりこのようなことを言っちゃいけないかもしれませんが、今、この学力調査は小中学校だと思んですけど、高校の現場では、昔は平気で100番以内とか順位を張り出していましたけど、高校のテストで今はそういうところはあるのでしょうか、教育委員会の事務局の方、お願いします。

〔教育委員会事務局〕

失礼します。県立高校ではないと思います。

〔浜田香川県知事〕

いつ頃からなくなったんですか。

〔教育委員会事務局〕

いつ頃からなくなったのかは正確には思い出せませんが、割ともうここ10年、15年の話ではないと思います。もっと以前からなくなってはいたと思います。

〔浜田香川県知事〕

ゆとり教育以前の頃ですかね。

〔教育委員会事務局〕

そうですね、割と以前からも順位付けは張り出さなくなっていたかと思います。

〔浜田香川県知事〕

もうこれを議論していると時間がいくらあっても足りないと思いますので、次の関連に進めていただければと思います。

〔司会（大山 香川県政策部長）〕

ありがとうございます。

それでは次に、教育の充実や地域との連携の関連で意見交換を行いたいと存じます。

教育委員の皆様いかがでしょうか。

〔藤村 香川県教育委員〕

そのことについて違っていてもいいですか。先程の教育、学力のことですが、やっぱり上位に入っていた頃と今との香川県の家庭環境とか、そういうのも大きく変わっていると思うんです。まず人数について、子どもたちが半分になったという現状があります。それから兄弟も一人っ子がかなり増えており、そして、ひとり親の世帯も今は4人に1人とされているような現状で、非常に競争力の低下が大きく牽引しているのではなからうかなと思います。

また、小学校においては、やっぱりいろんな障害を持った子も一緒にやるというインクルーシブ教育も進んでいまして、このあたりもやっぱり選抜学級みたいなのが出来ない限りはなかなか学力を底上げするというのは非常に難しいんじゃないかなというふうに私は思います。

先程言い足りなかったもので、すいません。そこだけちょっと言わせていただけたらなと思いました。

〔浜田香川県知事〕

一つのイメージとしてですが、今高知県とか広島県では、国際バカロレアを取れる高校を

それぞれ設けようとしています。そういうところを目指すのかどうかということは、知事部局の話のような気もしますし、教育委員会としても、教育の立場も当然関わってくる話かなと思います。ちょっと今、藤村委員さんが言い忘れたというので私も言い忘れたことを思い出したんですけれども。

どうぞご自由な意見をお願いします。

[平野 香川県教育委員]

全然話は違うかもしれないですけれども、大学で教えていますけれども、今の大学生を見て感じる場合があります。法的な義務付けもあって障害を持っている子をはじめとして、教育現場がすごく配慮をするようになっていて、それ自体、一人一人を大切にしていって個別具体的に配慮するっていうこと自体は非常にいいのですが、一方で配慮をされ過ぎている子どもといますか、生きる力がないとか、たくましさや欠ける子どもが増えているのではないかなというのが私が最近感じるところです。家庭環境にかかわらず、むしろ比較的恵まれているような家庭の子が、基礎学力と体力を含めて、生きる力とか再チャレンジする力がない。最近の小中学生くらいからキャリア支援を進めていますけれども、あまり早い段階で自分の将来を決めすぎてしまったために、それ以外が目に入らず視野がすごく狭くなっている学生や、一度決めたことがうまくいかなくても再チャレンジすることもできるとか、それ以外にもいろんな選択肢がある、ということがなかなか分からず、1回決めたことに失敗したらすぐめげてしまう学生が多いと思います。配慮されたうえで自分なりに決めていて、あまりに配慮されていると挫折もしていないので自分ではうまくいくと思っていて、でも、失敗したらもうぎゃふんとなってしまっていてその先に進む力がない、柔軟な対応ができない、生きる力がないとか、そういう子どもたちがすごく増えているような気がします。その意味ではもう少したくましい子どもたちに育てほしいなと思います。英語についても、英語を勉強するのではなくて、英語で学ぶ力をつけなくてはいけないので、英単語を覚えるっていうことで満足しないで、あるいは英語の科目の点数を上げることだけに終始しないで、その先を見据えて、英語を使って何かをする、というもう少し長いスパンで考えることのできる子どもを育てないといけないし、それが大事かなというふうに感じます。すいません、全然取り留めがないんですけれどもちょっと考えていることです。

[小坂 香川県教育委員]

平野委員が言われたことと関連するんですけれども、今の教育現場では目標を早く決めるこ

とが大切だから、自分を見つめて、早く進路を決めなさいと、指導をしていると思います。

その中で、本当にそういう指導がなくても小さいときから自分の目標を持っている生徒も少なからずいます。それは素晴らしいことだと思います。しかし多くの生徒は、総合的な学習の時間などで大学のいろいろな学部の先生の話の聞いたり、いろいろな企業の方の話を聞く機会もあり、情報をたくさん得ることができます。

ですが、なかなか進路が決まらない中で、慌てて一生懸命進路を決めますが、視野の狭いところで決めています。一度決めた後で、考え直すということも大切な体験の一つであり、そのことにより成長していくものだと思います。

ですから、早く目標設定をするのが良くないのではなく、進路を決めて努力し、それをもとに視野を広く、さらに考えていくことが大切であると思います。

〔榎田 香川県教育委員〕

地域との連携とありますけれど、学生の就職におきましては、やっぱり受入体制ができていないといけないと思いますが、香川県にこれという大きい企業はなく、受入体制が十分できていないと思います。昔から、香川県で就職するんだったら、県庁か百十四銀行がよく言われました。今は四国電力さんとかタダノさんなどいろいろ大きいところがありますけれども、やはりそういう意味で香川県の受け入れが進まないと、やはり輩出県になってしまうと思うんですね。特に関東に行った人の多分9割は帰って来ないんじゃないですかね。例えば、家の跡を継ぐとか、開業医を継ぐということがないと、なかなか就職において香川県に帰ってくることは、まだ関西圏の人はかなり帰ってきますけど、関東といったら非常に厳しいと思います。

やはりその受入体制を整備することは難しく、今では非常に就職環境は良くなっていますけれど、一時の冬の時代のときは、大学の定員を30万人増やして、そのためにみんなが行けるようになって大学を卒業したけれども就職口がないということもありました。

今は大分改善されてきましたけれども、これは香川県だけでなく、国の行政に関わる問題です。これは非常に根本的なことですが、地方地方と色々な話が出てきていますけれども、その地方がいかにか活性化するかはやっぱり若い人にかかっていると思いますので、ぜひ受入体制の充実、例えばどこかに企業誘致するとか、ここへ出ている以外の大学を誘致するとか、やっぱり人を動かす、活性化させるような施策が必要ではないかなと思います。

〔藤澤 香川県教育委員〕

取り止めのない感想とかになってしまうかもしれないんですけども、私自身、地域で子どもの居場所作りの部分に携わっている中で、香川県内の大学の学生さんにも声を掛けたりすることがあるんですが、学生自身もいろんな地域での活動とかに取り組んでいる状況の中で、いろんな活動がその学生を引っ張り合いこしながら参加しているという状況があるのかなと思います。また、ある程度の若い人たちにも地域に根づいた活動してくれているところもあるんですが、そうでない人とのように繋がっていけばいいのかなというところで、それは多分大学の時っていうよりも幼い時からの繋がりがないとなかなかそこに根付いていけないのかなあというふうに感じています。

私自身、子どもが幼いんですけども、保育所に職場体験の中学生とかが来てくれると、そういうお兄ちゃんやお姉ちゃんを見ながら、子どもたちが育って行って将来像が見えたりするところもあるので、やっぱり年代を超えた関係作りができる場があるというのがやっぱり大きいのかなと思った時に、いろんな活動とかボランティアは県内のいろんなところで行われているんですけども、そこがうまく繋がっていないところも正直あるのかなと感じていて、今ある活動も大事にうまく根付いていけるというか繋がっていけるような状況をいろんな関係機関と連携して取り組めたらなと思っています。すいません、感想でした。

〔藤村 香川県教育委員〕

先程、槇田委員が帰ってくる、企業とか大学の誘致の話がありましたけれども、それはそれで大変いいと思うんですが、やはり有能な人材が出ていく方っていうのはなかなか防ぎようがないなあというふうに私自身感じています。

ですので、インターネットの世の中になって、やっぱり香川県土という単位ではなくて、仮想空間香川県という発想を持って、香川県だったらどこに行っても、世界に行っても香川県というふうな空間作りをしたらどうかなあというような考えを持っています。その空間の中から国の施策にはなろうかと思うんですけど、教育税を取るとか、またはふるさと納税を取りやすくするとか、やっぱり税収に通ずるような空間というのは、もう絶対に避けて通れないんじゃないかなと将来的に思っています。

今はインターネット企業も国を超えて税金を課税しようという時代に突入しておりますので、やはり過疎化する地域ではそういうふうな空間を利用して、香川県の求心力に結びつけていけるようなことができたらいいなと思います。それがまた教育に結びついて、優秀な教育ができる香川県になって、出て行っても、香川県にまた何かメリットを持って帰れるような、そういうふうな取組みもいいんじゃないかなというふうに考えております。

〔浜田香川県知事〕

ありがとうございました。地域との関連ということで、いろいろ突き詰め、そもそも今藤村委員がおっしゃったように、香川県という地域単位で考えるのかどうかというところもそれは確かにあるのかなと、各市町の教育委員会で考える場合、県の単位で考える場合といえますか、文科省として考えるというふうにはいろんな範囲があるのかなというのを今聞いていて思いました。

そういう中で、やはり、子どもたちが本来希望する働き方や希望する暮らし方を香川県、自分の育ったところでというものがあまり実現されていないとかそこはおっしゃるやうに何かこう、ある種PR不足っていうのもあり、また、現実にもっともっといろんな誘致をするべきじゃないかというのもその通りだと思いますが、我々としてもいろんな施策もご紹介しましたけれども、香川県で働くということを前面に押し出していろんな政策に取り組んでいるつもりであります。

もう少しそこはそういう点で御覧になって、教育の後といいますかその出口みたいな話だと思うんですけども、そこはこういうところをもう少し工夫すればいいんじゃないかというようなことがあれば、また教えていただければなと思っております。

率直に言って、香川県の企業の名前を知らないっていうのは、おそらくどこの地方でも同じじゃないかなと思いますけれども、テレビでコマーシャルをしている会社がいい会社だと思ってしまうわけですが、そこはそうじゃないよというようなところを我々も訴えていかなければいけないのかなと思います。

あと、本当に優秀でノーベル賞をもらう人は、東京というよりも日本にいない可能性もあるわけですけども、それでも香川県との関係を持っていただくことが香川県での教育の一つの意義とか効果なのかなという気もしておりますので、またその辺は我々もまたいろいろ考えてまいりたいと思っておりますので、よろしくお願ひしたいと思っております。

〔平野 香川県教育委員〕

一点、榎田委員が、本県にはあまり企業がないとおっしゃっていたんですけども、ただ香川県には高等裁判所もあって、あと四国としての支店も結構あります。赴任をする時に子どもを連れて行くかどうかという時に、子どもの学力、赴任先の学校のレベルというのは非常に関心事だと思うのです。点数について、そんなに上でなくても全体のレベルとして学校のレベル、小中学生ですと市町というところになるかもしれませんけれども、目に見える評

価というのは非常に大事かなと思います。

そして、それらを現地に来て調べる前には、たぶんホームページで調べたりして、つまりホームページでいろんなチェックをして、学校のレベルとか雰囲気とかを分かる範囲で調べて、それで赴任先に子どもを連れていくかどうかを決めている部分も大きいと思います。特に小さい子どもの場合には、家族での引越しを決めてそのままうまくいけば、子どもはそのまま香川県に残って、転勤が多い方だけが他県に単身赴任するという例も私はたくさん見ているんですけども、その意味では子どもの学校教育については、ホームページでも情報発信して行ってほしいですし、教育環境が充実しているということも、先程宣伝が足りないという話もあったかと思うんですけど、もっと宣伝してもいいのかなというふうに思います。

〔司会（大山 香川県政策部長）〕

ありがとうございます。後10分程度しか時間がございませんが、教育環境の関連で教育委員の皆さん、いかがでございますでしょうか。

〔小坂 香川県教育委員〕

教育環境といいますか、子どもたちの通学の安全性を高める必要があるのではと思います。最近、イノシシが小学校のすぐ近くに現れたとか、通学路に大きさが1mくらいあるのが2頭いたとか耳にします。今は情報が保護者宛てに育成センターからメールで入ってきます。情報を早く知ることができるのはありがたいのですが、心配するだけで何も対処できません。栗林公園や市街地へもイノシシが出て捕獲したことが新聞に出ていましたけれども、子どもたちの通学路が気になります。特に小学生は徒歩で通学しますので、心配しています。保護者の立哨や青パトのパトロールもあるのですが、どうにかならないものかと思っています。

〔浜田香川県知事〕

今日お持ちすればよかったのですが、このようなチラシを各学校に配っています。子どもでも分かりやすいように、出逢った時にどうするかというようなことを記載しています。

やはり、これはそもそも今生息しているのを根絶するというのは、率直に言って非常に難しいと思います。この間の栗林公園の時も大変苦労したんですけども、北九州では街中のだ真ん中に出てきたりして、それがまた鳥獣保護区になっているから捕まえちゃいけないかですね、本当かなと思いましたがけれども、結局それは捕獲して山に放したそうです。

そんなチグハグなところも行政としてはあるんですけども、やはりそういうような場所

でも出てくる可能性があるということを認識して、我々も各市町もまた学校も訓練みたいなのをやっていくということが一番現実的なのかなと、この話に関しては思っています。

[槇田 香川県教育委員]

温暖化の影響で夏が異常に厳しい中、今、小中学校の冷房の普及率はいくつぐらいですか。香川県の場合、特に暑いからです。

[浜田香川県知事]

96%ぐらいあって、日本のランキングでは一応全国1位になっています。これは、県というよりは、各市町が本当に一生懸命取り組んでおられます。100%じゃないのは、特別教室みたいなものがあるからで、普通教室は全部100%になっております。

[藤村 香川県教育委員]

教育環境の整備という話から少しずれるかもしれませんが、今私はアート県香川を目指しているということで、非常に興味を持っているというか、今後力を入れるべきものじゃないかなあというふうに考えております。

特に、瀬戸内国際芸術祭は香川県の知名度を上げまして、全国県内外から非常に大きな人が動いたと、また、島の人たちに活性化も与えたということで、すばらしい事業だと思います。

一方で、社会の方ではここ20年間の間にAIが発達して、人間が仕事を奪われるとかいろいろな生活環境が変わろうとしている中で、どのような教育が必要なのかということを考えると、やっぱり芸術みたいな感受性豊かな想像力のある技能とか能力を持った人間を育てないと、AIが発達した社会では人間がなかなか生活できづらくなるんじゃないかなというふうに思っております。

ということで、やっぱり教育環境もそれに見合った、芸術という幅が広いですけども、美術とか音楽とか演劇とかいろいろなことに子どもたちにチャンスを与える場を提供していくような環境づくりが非常に大切になるんじゃないかなというふうに思っております。

そういうことによって、香川県の人たちの生活が豊かなものになり、街も綺麗な美観に揃えられ、そして他県から羨ましがられる県づくりになるんじゃないかなというふうに期待しております。ヨーロッパに行けば、夕方または週末にはどの街角でもミニコンサートが開かれたりとか、演劇をしたりしているような風景が見られますけれども、そういうふうな香川

県になってくれたらいいなというふうな気持ちを持っています。教育現場にもそういう環境をぜひ整備してもらいたいなという気がいたします。

〔小坂 香川県教育委員〕

時間のなかでもう一点、新県立体育館は、本当に規模も大きく県民の皆が期待をしているところです。その中で中学生、高校生、生涯スポーツの方、あるいは競技団体の方たちが使いやすいような施設にしてほしいと思います。コンクリートの上に木の床を張るというふうなお話を聞いていますけれども、木の床をセッティングしたり、外してコンクリート床で使ったりする中で、セッティングするのに使用者側に経費がかかるということをお聞きしました。床のセッティングあるいは取り外しの経費が使用料以外にかからないように望みます。また、中学生、高校生の四国大会や全国大会などの大きな大会が香川県で開かれる時に、コンサートで使っていて、これらの大会にメインアリーナが使えないということがないように願っています。県民が期待している体育館ですので、県民が使いやすいものになるように願っています。

〔浜田香川県知事〕

それは本当に大事なことだと思います。体育館というものは県民の皆様にご利用していただくというのが基本だと思いますし、競技スポーツや生涯スポーツに加え、さらにコンサート等も開催できる集客施設にもなればいいと思います。

床の部分の使用については、技術的なところはありますけれど、お金に絡んでくるような話は、その負担が大きいために県民が利用できないというようなことがあっては本末転倒ですので、そこは十分注意してまいりたいと思っています。

5 閉会

〔司会（大山 香川県政策部長）〕

よろしいでしょうか。まだまだ御意見があるのかもわかりませんが、申し訳ございません。予定の時間となりましたので、以上をもちまして本日の会議を終了させていただきます。

これをもちまして、香川県総合教育会議を閉会とさせていただきます。

本日は誠にありがとうございました。